

# 能力開発総合アドバイザーとしての考察

広島センター 榎 法之

## 1. はじめに

現下の厳しい雇用失業情勢のもと、労働者個人の主体的なキャリア形成や求人と求職の効果的なマッチングを支援するため、雇用・能力開発機構においては国の方針に基づき、平成14年度から「キャリア・コンサルタント養成講座」を全国的に実施している。

以下、広島における開催状況を述べる。

## 2. 受講者の状況

第1回開催を平成14年11月2日（土）から現在第7回実施中まで連続して実施してきたところである。特に第6回開催は地域の強い要望で2会場での開催となった。以下、実施年度における受講者の属性をグラフにしたものである（図1、図2、図3）。

第1期から第6期までの受講者は総数136人で、男

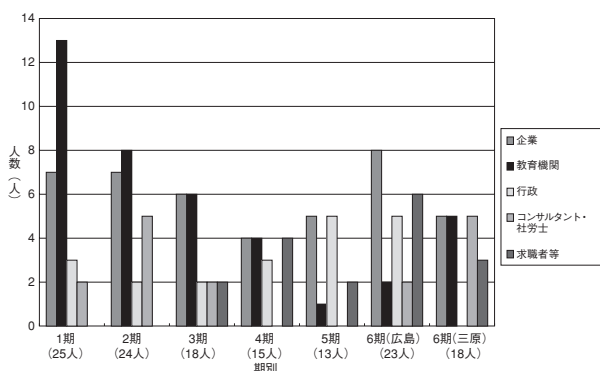


図1 期別所属構成

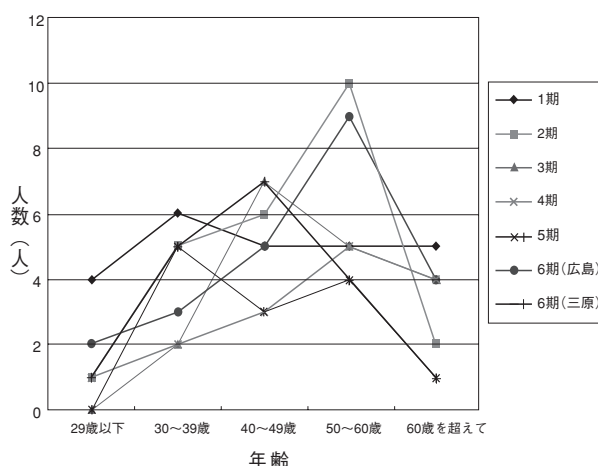


図2 期別年齢構成推移

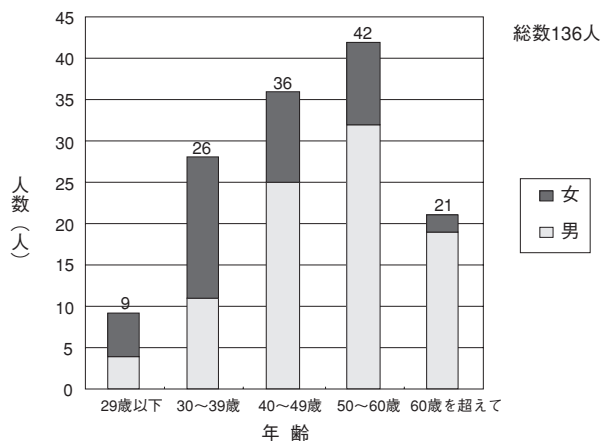


図3 年齢別受講者

性91人、女性45人であった。

そのうち修了者数は男性85人、女性44人であった。（未修了者は第1期1人、第2期3人、第6期（広島）1人、第6期（三原）2人である。）



図4 受講中の風景

また、第5・6期は若干行政機関で働いている受講者が多くなったが、その原因として考えられるのは行政機関でのキャリア相談の必要性が浸透したものと推察される。

### 3. 開講準備

それではまず、第1回立ち上げ当時のことをこの講座を担当する者のひとりとして述べることにする。講座の一部を演習担当するに先立ち、私ども総合アドバイザー23名が総合大学校に集められ、担当内容のほかに本講座の意義や機構の役割、能力開発とキャリア形成支援の専門家としての心構え等について研修を受けた。

総合アドバイザーとして意気に感じるとともに専門家養成ということから多少の不安を覚えたものである。しかしながら、むしろわれわれより責任者である本部の方が一番不安だったのではないかと推察する。

また、公的な養成機関である立場上、カリキュラムの構成を学識経験者、カウンセリングの先輩格である2つの団体との組み合わせや調整に大変苦労されたのではと推察する。それは私共施設に届く情報や資料の運配等からうかがわれる。

### 4. 募集状況

次に募集に係る考察を述べると、第1回、2回開

催時には比較的キャリア形成に積極的な企業や職業訓練委託先へのアプローチができた。結果、定員をほぼ確保できた。

しかしながら、だんだんこうした理解のある企業や委託先の限界が見え、定員を下回る結果となってしまった。特に4回、5回の落ち込みがひどかった。日々日常業務をこなしながら応募状況を期待する心地はあまり良いものではなかったことを覚えている。

そこで、大学回りや企業へのアプローチを強化してみた。進路指導の担当者にお会いして話を聞いてみると、キャリア形成やキャリアデザインに係る認識と熱意は強く感じられた。ただ、学校全体としての浸透度はこれからのようである。講座の内容を説明し、受講を勧めた結果、多くの大学では土曜日にはいろいろイベントが組まれていて、進路担当者も出席がなかなか困難とのことであった。

キャリア形成推進助成金活用企業や訓練施設のセミナー利用企業での反応としては、さまざまであった。やはり一般企業では労働者個人へのキャリア形成に関する理解度はまだまだこれからという印象を受けている。

一方、前回6回は募集開始から問い合わせや応募が多く寄せられ、募集には殆んど苦労しなくてよかった。デュアル訓練委託先や修了生の方達からの口コミの影響が大きいのではと感謝している次第である。

広島会場と三原会場2カ所で定員を超える受講者があり、2人の総合アドバイザーと講座全体のマネジメントをした調査役、訓練施設担当者さらに専門役の方たち一体となつての実施のたまものと考えているところである。

さらに今回は、他の施設で募集に苦戦しているとうかがっているが、広島ではお陰さまで20人定員に対し、27名受講中である。

ただ、受講者の属性を分析すると行政機関職員の相談スキルアップと同時に、求職者で修了後のハローワーク等の行政機関での将来の雇用が期待できるということで受講されている方が目だった。

## 5. 養成講座の認識と受講後のかかわり

次に応募するに当たって、本講座に対する認識度と実施担当者側に対する反応について述べることにする。

インターネットホームページを見た人や知人から話を聞いた人等から、電話での問い合わせや来所される人の質問の多くは、カリキュラム内容、曜日・期間、他の講座との違いである。特に多かったのは当初、資格が取得されると誤解をされた方が目だった。公的機関だから規制緩和の関係で資格を付与できないことを理解していただくためにかなりの時間を要した。現在は、さすがにこうした資格への誤解はほとんどなくなってきている。

また受講中の方から、これまで会場当番への丁寧な対応に感謝の声をよく聞いているところである。

さらに修了生から能力開発支援ツールの利用とか、実践の場の便宜依頼や評価試験に係る勉強会からスタートした研究会（昨年末NPO法人化した）の定期

的開催や講師依頼等、機構とのかかわりを持ちながら、相互にいい意味で利用している現状である。

修了生の皆さんは、人物的に優秀な方が多く、お陰さまでこれまでトラブルや苦情は一切なかったと自負しているところである。さらに第1回の課題レポート事例集に全国13名中、3名好事例として掲載されている。こうした受講生にかかわらせていただいたひとりとして誠にうれしい限りである。

## 6. 今後の課題

最後に今後の課題として、期待を込めて以下の提案をしてみたい。それは来年度1回限りで終了が決定されている現在、これからは、これまで広島でもみられたように企業の方の受講者が少ない現状を考えると、やはり最終的な受け入れ先である企業でのキャリア形成の意義と活用をいかに図るかということが重要と考える。在職者へのアプローチをいかに仕掛けていけるか。機構本部の方にお任せでなく、地域での検討も必要であろう。

# キャリア教育 ——歴史と未来

Career Education : History and Future  
Career Education :  
History and Future

KENNETH B. HOYT 編著  
仙崎 武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄 訳



# キャリア教育 ——歴史と未来

Career Education : History and Future

■KENNETH B. HOYT 編著

(原著 National Career Development Association 発行)

■仙崎 武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄 訳

■A 5判/284ページ ■定価2,730円(税込)

ISBN4-87563-230-4

米“キャリア教育の父”ホイトによる  
“キャリア教育史の記念碑的書”!

アメリカにおけるキャリア教育の歴史と具体的事例、理念、未来展望等を系統的に論じた関係者必携の書、待望の邦訳。

新規発刊

■発行所

社団法人 雇用問題研究会 <http://www.koyoerc.or.jp>

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-14 電話 03-3523-5181(代表) FAX 03-3523-5187